

地震発生

最初の大きな揺れは約1分間

- 身の安全を確保する



揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ちていて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦の落下・ブロック塀の倒壊・自動販売機などの転倒に注意



みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- 隣近所に声をかけよう**
  - 要配慮者の安全確保 隣近所で助け合う
  - 行方不明者はいないかの確認 ●ケガ人はいないか
- 出火防止 初期消火**
  - 消火器を使う ●余震に注意
  - 漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーをおろす・ガスの元栓を閉める

ラジオなどで正しい情報を

- 防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされないように ●避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう 最低限3日分(推奨7日分)の飲料水と
- 災害・被害情報の収集 ●壊れた家に入らない 食料の備蓄をしておく
- 近くの人への救出・救護



1~2分

3分

5分

10分  
数時間  
3日

屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかにする。(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)
- 乳幼児や病人、高齢者など災害弱者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らないようにする。(ガラスの破片などでケガをする)



集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。(煙などできる限り吸わないように、姿勢を低くし、口をハンカチなどで軽くふさぎ、避難をする)

屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護する。
- 建物から離れ、安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。



車を運転中

- ハンドルをしっかり握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

山沿い・谷沿い

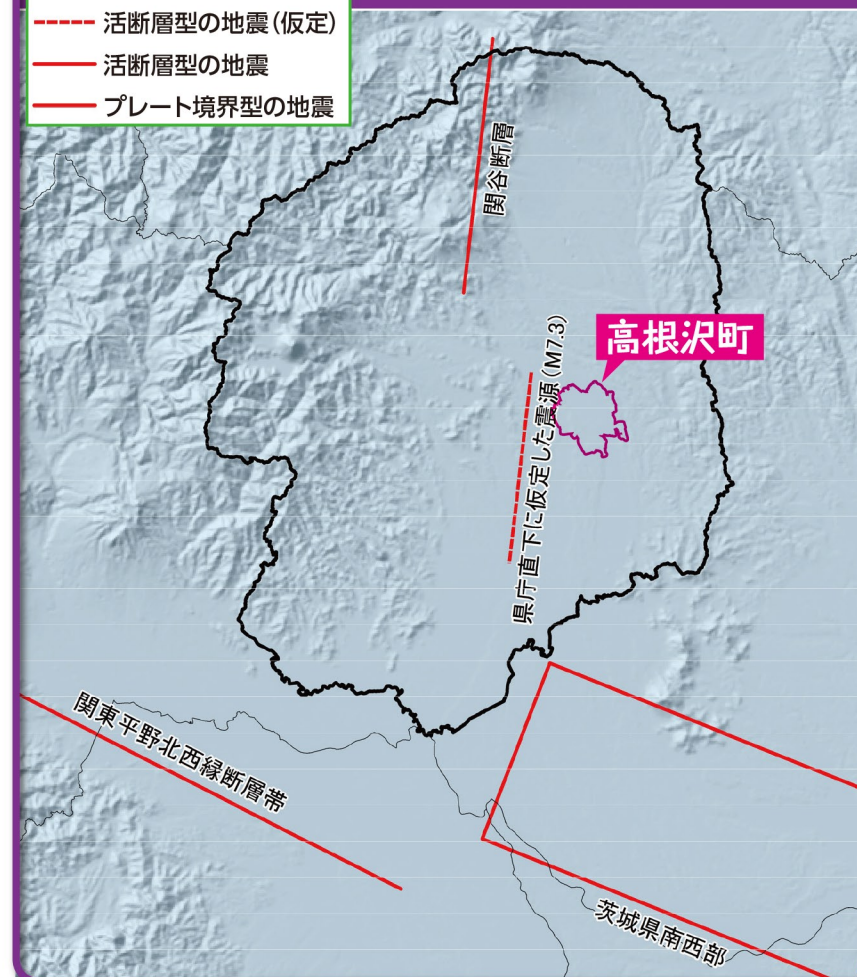
- 地震により土砂災害が発生するおそれがあるため、安全な場所へ避難する。

想定震源(断層の上端)の位置

栃木県庁直下に仮定した地震(マグニチュード7.3)を想定

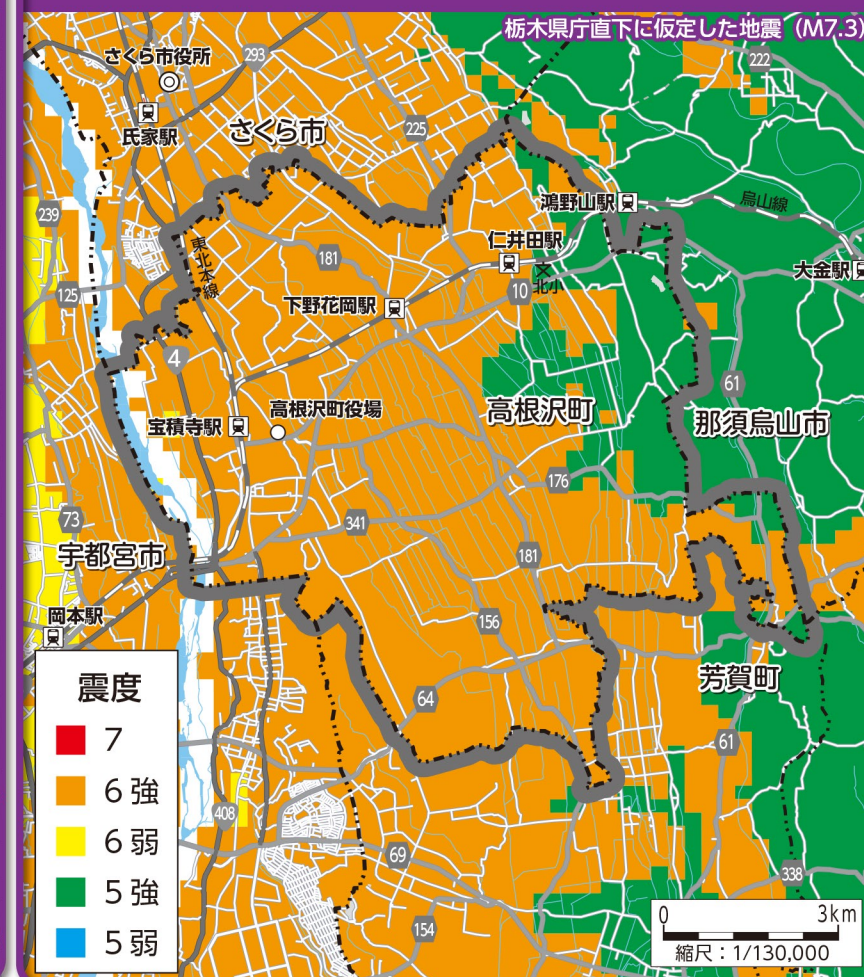
凡例

- 活断層型の地震(仮定)
- 活断層型の地震
- プレート境界型の地震



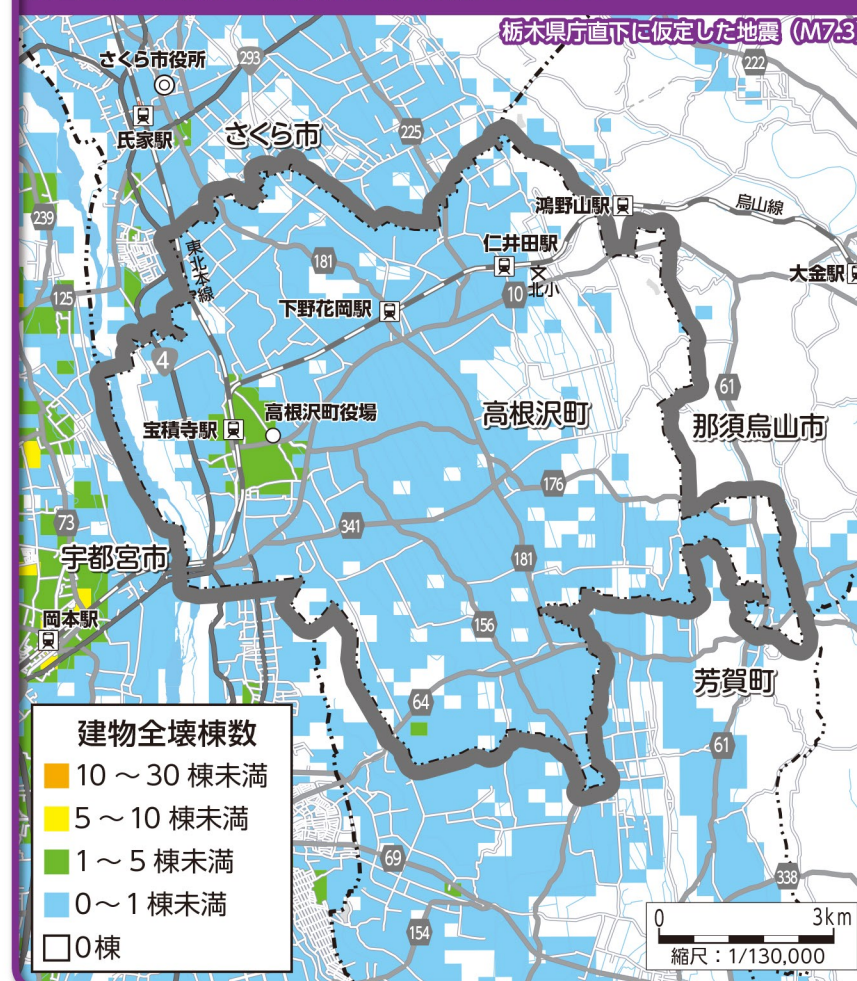
地表震度分布図

この地図は、栃木県が行った地震被害想定調査において、栃木県庁直下に仮定した地震の被害が発生した場合の震度分布を250mメッシュで表示したものです。



建物全壊棟数分布図

この地図は、栃木県が地表震度分布図の震度分布をもとに、構造別・建築年次別の建物データから倒壊被害の危険度を予測し、250mメッシュで表示したものです。昭和56年5月31日以前の建物の割合が多い区域は、危険度が高く表示されます。



液状化可能性図

この地図は、栃木県が地形データ、地質データ、地下水位データ、想定される地表震度等をもとに液状化可能性を判定し、250mメッシュで表示したものです。

